



第4分科会

くらしと社会保障

生きがい、仲間づくり、生涯現役

助言者 原島 清（医療生協さいたま生活協同組合・
ふじみ野ケアセンター所長）

司 会：大森 敬藏（医療生協新座）

記 録：本間 沢子（新座年金者組合）



参加者：7名（医療生協、新婦人、年金者組合等）

◇社会保障制度・介護保険制度の動向について学ぶ

（助言者の原島氏より図表等資料に基づき説明を受ける）

<75才以上の高齢者の増大>

- 我が国の75才以上人口の割合は、現在10人に1人の割合であるが、2030年には5人に1人、2055年には4人に1人になると推定されている。

<諸外国の合計特殊出生率の推移>

- 日本の出生率は、国際的にみて最低水準、低下の一途をたどっていることが特徴。

<今後の我が国の人口構造の急速な変化>

- 我が国の合計特殊出生率は、2005年に1.26%と過去最低を更新。人口減少が始まった。
- 新人口推計(中位)によれば、2055年に生まれる子ども数は現在の約4割、高齢化率は2005年の2倍(40.5%)、生産年齢人口(15~64才)も現在の2分の1近くに急激に減少する。

<平均寿命の推移と将来推計>

- 2007年の平均寿命は女性85.99才、男性79.19才だったが、2055年には女性90.34才、男性83.67才になると推定される。

<高齢者の世帯形態の将来推計>

- 2015年までは単独世帯が夫婦世帯を上回っているが2020年、2025年・・・と年々夫婦世帯より単独世帯が多くなっていく。2025年になると夫婦世帯が609万人、単独世帯が680万人にもなると推定されている。
- 同居率は低下し、高齢者の一人暮らし世帯が急速に増加していく。
- 女性の単独世帯が多くなる。

<年齢階級別にみた同居している主な介護者と要介護者等の構成割合>

- 平成19年の国民生活基礎調査によると、70代の要介護者を同じ世代の同居の70代の介護者が老老介護をしている。この年齢層が最も多い。今後も更に増加していく。

<認知症高齢者の増加>

- 2002年9月末の推計では、特徴として認知症自立度Ⅲ以上は7%が活動的な認知症高齢者で、将来推計でみると、2030年には認知症自立度Ⅱ以上353万人、2045年には378万人となり、高齢者の10%が支援を要する認知症高齢者になると言われている。

<高齢者の生活の現状と課題>

- 戦後の死因の推移を見ると、感染症によるものが大幅に低下し、がん等の悪性新生物、心疾患等が死因の多くを占めるようになってきている。死亡場所では、自宅の比率が年々低下し、医療機関がおよそ8割となっている。また今後、死亡数は、2040年頃に現在のおよそ1.5倍に達すると見込まれる。がんが死因のトップで、死亡場所は病院がトップ。
- 高齢者世帯の年間所得は5世帯に2世帯が年収200万円未満。(高齢者世帯とは、65才以上の者のみで構成するか、又はこれに18才未満の未婚者が加わった世帯をいう)
- 認知症・がんを患った低所得の要医療・要介護の女性独居高齢者が増加。
- 病院医療中心の「治す」ケア・「生活」を支える地域包括ケア。

<肩車型社会へ>

- 今後、急速に高齢化が進み、やがて「1人の若者が1人の高齢者を支える」という厳しい社会が訪れることが予想されている。

<社会保険方式の意義>

- 日本の社会保障は、社会保険方式が基本
- 日本の社会保険には、多くの公費が投入されているが、公費の投入は低所得者の負担軽減等に充てるべき。
一方、保険者の制度間の負担の調整は基本的には保険者間で行うべきであり、原則としては公費投入に頼るべきでなく、公費投入は保険者間で調整できないやむを得ない事情がある場合とすべき。

- 社会保障が保障でなくなっている。

<介護保険制度改革>

- 介護保険制度の改悪が進んでいる。年収 360 万円が分岐点になり、5 人に 1 人が 2 割負担になる。「自己負担 2 割」はどこで線引きするのか？
- 医療から介護、施設から在宅へは今後進むのか？ 要介護 2 以下、施設入所から排除。単身 1,000 万円、夫婦 2,000 万円預貯金者、補足給付から排除。
- 介護保険の枠組みを変えていこうとしている。低所得者にとっては安心できない深刻な問題だ。

◇説明の感想を含めての自己紹介（主な感想・意見）

- ・ 夫を亡くし独居で、年金で細々と暮らしている。夫は自宅療養を希望していたができなかった。介護保険改悪で今後が不安。健康でいなくてはと思う。ヘルパーの条件が悪くなってきている。もっと社会制度を良くしていく運動をしていかなくてはと思う。
- ・ 10 年間夫の母を介護した。夫もその 3 年後に他界した。現在独居。子どもも自分の生活があるので頼れず、寝込んだ時にはどうしようと不安になる。良い施設を造って欲しい。自分の年金で入れる施設に入所したい。
- ・ 今のところは健康。実家には 90 才を過ぎている両親がいる。妹が無年金に近い為、親が娘を養っている状況。自分は来年 70 才。夫婦で年金をもらっている。未婚の息子もいる為、できるだけ支出を減らして貯金をしたいが・・・。
- ・ 憲法 9 条、集団的自衛権などに感心がある。戦後日本はだんだん良くなっていくと思っていたが、精神的には悪くなっている。病気になった時の事は考えていない。なった時に考える。独居になって 3 年経過。子どももいないので天涯孤独。一番の心配はこの日本がどうなっていくのか？世界恐慌はないと思うが・・・？

- ・もうすぐ 75 才。毎日が不安、今後どうなるのか？
- ・人工関節入れていて障害 3 級。要支援 1。介護保険や後期高齢者医療保険、その他諸々の会費だけで年金が支出されてしまう。

◇柱立て（討議事項）

年金支給額が減って消費税は上がる、社会保障は下がる・・・負担はどんどん大きくなっていくが？

- ・男 1 人 280 万円。360 万円もらっても色々引かれてそんなに残らない。
- ・負担を減らす為に「収入に応じての負担に！」と声をあげていなくては！
- ・介護保険は国庫負担にして欲しい。
- ・介護認定は無くして欲しい。
- ・65 才以上の 1 号保険は保険料を無料にするべき！
- ・累進課税にするべき！

◇参加しての感想

- ・運動も大事だが、自分なりの楽しみ方を考えていきたい。
- ・活動そのものが楽しいので、日本中のみんなで団結したい。
- ・物忘れ、足が痛い。この先どうなるか不安。もう少し楽しい事を見つけない。
- ・今、太極拳や川柳をやっている。元気に楽しく生きたい。新聞紙の貼り絵を作成している。楽しみながら生きていこうと思う。
- ・毎日楽しい。本を読んでいけば楽しい！年間 300 冊。図書館で借りて読んでいる。自分が希望した本は買ってくれる。

◇まとめ

- ・高齢者の方々に、これまで自分がどう生きてきたかを是非綴って欲しい。戦前、戦後の苦労は経験した高齢者にしかわからない。
- ・生活アセスメントは、貧困だから出てくる問題。貧困になったのは何故か？高齢者が抱えている問題は自己責任ではない。無理矢理に戦争に行かされた

のだ……。そこが運動のベースになっている。

- ・医療生協・社保協など各団体が一体となって頑張っていこう！大きな力にしていこう！

◇最後に

分科会が始まってすぐの皆さんの意見は、将来に不安を感じる意見が多かったが、それぞれ本音で意見を出し合う中で、同じような不安を抱えている事がわかった。

今の社会の問題点や社会保障の貧しさは、国の責任としてきちんと果たして欲しいという意見で一致した。

要求実現の為に、みんなで団結して運動していこうという気持ちが、更に強くなったのではないかと思う。

その為か、最後の感想では皆さん「日々を楽しく生きたい！」と、とても前向きな発言が多く出ていた。一日一日を大切に、そして自分で楽しみを見つけて満足できる最高の人生にしようと、明日に向かっていく気持ちが強く感じられた。

皆さんとても若々しい方ばかりだった。前向きな姿勢が、更に若さに繋がっているのだろうと思った。

豊かな生活と社会保障は切り離せない。諦めずに前向きにみんなで頑張っていこう！大きな力にしていきましょう！

申し合わせ事項

1. 心豊かに、健康で安心して暮らせるために医療・介護保険・年金の充実が必要です。
2. 消費税に頼らない最低保障年金制度の確立を。
3. 消費税増税反対。特に生活費には課税しないでください。
4. 住み慣れた地域で暮らせる宅老所の設置も今後の課題として考えていきましょう
5. ひとりぼっちの高齢者を孤立させないように、近隣の人たちとネットワークをひろげましょう。

要望事項

1. 後期高齢者医療制度の廃止を市が積極的に要望してください。
2. 介護保険の利用時間短縮は利用者にとって非常に不安です。利用者が利用しやすいよう、市、独自の給付を検討してください。
3. ヘルパーの労働時間と移動時間の保障をしてください。
4. 最低保障年金制度の確立と年金の引き下げをやめるよう国に要望してください。
5. 生活を脅かす消費税の増税反対の声を国に届けてください。
6. 国保料・介護保険料の値上げはしないでください。生活保護の扶養義務の強化と給付額1割削減をやめてください。
7. 小規模多機能型居宅介護施設を日常生活圏域に1カ所以上設置してください。
8. 緊急連絡システムを希望者全員に無料で設置して下さい。